

# 訪れたいまち

ささやまし  
兵庫県篠山市

篠山市

兵庫県



篠山市篠山伝統的建造物群保存地区

城下町の篠山城跡、武家屋敷や商家群からなる美しい伝統的まちなみ。今もなお当時の面影が残る歴史的なまちなみを守り続けた人たちの思いと、まちづくりの努力のあかしがある。

周囲を山に囲まれた盆地の中にあり、古くから京都と山陰、山陽を結ぶ交通の要衝の地。徳川家康の命による天下普請により篠山城が築城、翌年から城下町が整備。江戸時代を通して篠山藩5万石の中心地として栄えた歴史と伝統を今に伝える古きたずまいの丹波篠山。

## 歴史あるまちを守る

城下町形成時の町割りが残され、静かな時間が流れ歴史を感じさせる古民家小さなエリアに多くの文化財があり、小京都の雰囲気。平成26年に都市景観大賞都市空間部門で大賞(国土交通大臣賞)を受賞した篠山城下町地区。城跡を中心に東西約1500m、南北約600mの「篠山市篠山伝統的建造物群保存地区」(以下、「伝建地区」)がある。河原町と小川町の東西700mの通り沿いの両側は主に妻入の中二階建の主屋が建ち並び、窓は出格子やムシコ窓、表構えは大戸や格子を基調とした旧商家町。時代劇の世界に



堂々とした石垣が往時を偲ばせる篠山城跡

入り込むような感じに包まれる。黒岡川を境に、篠山城跡の周囲に広がる西新町と南新町、東新町がある旧武家町。御徒士町通りには土塀と棟門、茅葺の主屋が建ち、武家屋敷のたずまいが伝わる。

篠山城下町は昭和30年代以降に無任家屋が増え、建物の取り壊しでまちなみを存続できない可能性が高くなり、特に伝建地区は、江戸時代から昭和初期に建築された建物が多く、老朽化による傷みなどが多くまちなみ保存が緊急の課題となり、昭和40年代から取り組みが始められた。城跡の石垣修理事業を始めに、道路整備、道路美装化、電線類地中化などが進められ、伝統的建造物群保存地区制度導入の取り組みを目指すものの、当初はなかなか地域の理解が得られず、2度見送りになる。平成11年の篠山市誕生をきっかけに3度目の取り組みを行うこととなり、導

※1 伝統的建造物群保存地区……伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、市町村が都市計画又は条例で定める地区

●大正ロマン館

平成4年までの約70年間篠山町役場として使われた建物。売店やレストランがあり観光の拠点に



●歴史美術館

明治24年に建てられた日本最古の木造裁判所を90度回転させ美術館に改修。館内には旧法廷の姿が残されています



●鳳鳴酒造ほろ酔い城下蔵

1797年に創業した鳳鳴酒造の建物。酒蔵見学では酒造りに使っていた古い道具や清酒の製造工程を紹介。試飲もできます



●武家屋敷安間家史料館

旧安間家住宅で、内部には江戸時代の文書や食器など篠山藩ゆかりの資料を展示



●旧武家町の町並み

屋敷内にはカキやクリが植えられています



●小林家長屋門

茅葺きの長屋門。城下町の武家町にあった数少ない貴重な武家屋敷門



●竹林

ボランティアにより整備されています



庭園にある水琴窟(すいぎんくつ)。中央の黒い石に水をかけると心む美しい音色が



鳳鳴酒造の会長井階作京さん「篠山のお酒を味わってください」



まちの中どこかにいるよ。探してね



●丹波杜氏酒造記念館

酒造りのまちと知られる篠山。丹波杜氏の古くからの道具や酒の醸造を9つの過程で展示



●旧商家町の町並み

妻入町家の敷地は間口が狭く奥行が深い特徴



●西坂家住宅

江戸時代に建築され醤油屋を営んでいた中二階建妻入の町家



●川端家住宅

明治前期に建築された平入町家。内部の豪華さは伝建地区で群を抜く

今ある姿を残すために

伝建地区のまちなみを守るために住民、専門家や篠山市で三者連携の取り組みが行われている。

伝建地区指定を機にまちなみ景観保存、住環境整備で魅力あるまちづくりを目的に平成16年9月に結成されたのが「篠山まちなみ保存会」(以下、「保存会」)。以降、保存会役員、建築士、篠山市職員が出席し毎月1回開催される定例役員会では、特定候補の検討、修理工事対象物件の選定、工事の進捗管理などについて話し合いを。ほかに修理見学会、視察研修など

入にける住民の情熱と献身的な努力により平成15年に「篠山市伝統的建造物群保存地区保存条例」が制定。平成16年「伝建地区」を指定、同年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定。翌年から伝建地区の保存修理事業が始まり歴史的なまちなみがさらに美しくなっていく。

篠山城下町全域は平成5年に県条例による「歴史的景観形成地区」に、平成23年には景観法に基づく篠山市景観条例により「歴史地区」に指定され、伝建地区を含む城下町全域の景観保全・形成が進められている。

※2 重要伝統的建造物群保存地区……伝統的建造物群保存地区の区域の全部又は一部で、我が国にとって価値が高いものとして文部科学大臣が選定



左上からNPO 町なみ屋なみ研究所 才本謙二さん、教育委員会社会教育・文化財課 成田雅俊さん、左下から篠山まちなみ保存会 副会長小林宗平さん、会長小林一三さん、保存会登録建築士 河南誠さん、酒井吉一さん

勉強会を開催しており大きな役割を担っている。小林会長は「毎年、修理工事の要望は多いが、できるのは年に数件で順番を決めるのが難しいものの、みんなのまちを大切にしたいという気持ちがあつた。復元ではなく、今あるまちの姿を残すために活動している」

保存会登録建築士で兵庫県ヘリテージ・マネジャーの河南誠さんは、「古民家の修理は新しすぎても古すぎてもダメで境目が難しいが、古民家は一般住宅とは違い空間の広がり、外観のデザインの統一感のあるところがいい」、酒井吉一さんは「伝建地区はまちなみを残すためにいろいろなルールがある。みんなでルールを守りながら、このまちなみを大切にして残していきたい」と話す。

「NPO法人町なみ屋なみ研究所」が主体となって取り組んでいるのが「古民家再生プロジェクト」。町家が解体されまちな

## 城下町の古民家カフェ



岩茶房丹波ことり…武家屋敷を改装。深い香りが楽しめる岩茶専門店



栄亀堂…心地よくゆっくりとした時間が流れる素敵なカフェ



ジャスミンティマ…庭を眺めながら落ち着いた雰囲気でお食事を

みが壊れるのを食い止めたいたい思いから設立。理事の才本謙二さんは「市民主導の古民家再生は、専門家の指導のもとにボランティアが作業。時間がかかり年に1、2件しかできないが、さまざまな効果を生みだすやりの作業がある」と。ボランティア作業は月2回で解体や塗装など。プロによる裏技が伝授できるとリピートにつながっていると。再生した古民家は店舗などに生まれ変わる。また、西新町や南新町で繁茂した竹林も自治会などのボランティア作業により整備を行っている。

近年は、市民主体による「丹波篠山まちなみアートフェスティバル」などのイベント開催でまちの活性化にもつながる。伝統

建地区指定から10年の今でも地区住民のまちなみ保存の意識は高いという。小林会長は「みんなの協力によりまちなみが年々美しくなり、イベントなど行われるようになってきた。今はまだ大丈夫だが、次の次の世代になると篠山が自分の故郷という人が減ってしまうかもしれない。そうなるこのまちなみを残していこうという意識が薄れてしまつてもいけないので、先の話だがみんなできると考えていかなければ」と話す。

## 歴史・文化・食と魅力がいっぱい

四季を通して城下町で行われる行事。春日神社の秋の祭礼は4基の神輿、9基

## 都市景観大賞「都市空間部門」

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。「篠山城下町地区」は平成26年度に大賞(国土交通大臣賞)を受賞。

の鉾山が城下町を巡行する様子は祇園祭を思わせる。古民家を利用したお洒落なカフェや雑貨店が増え、情緒ある城下町を歩きながら篠山の歴史・文化そして買物が楽しめる観光スポットとして注目され、篠山市を訪れる人が増え、兵庫県でも有数の観光地の一つに。観光案内所では「ささやま聴き旅」が借りられ、専用スマートフォンを説明ボードに近づけると音声ガイドブックが自動的に音声が流れガイドブックなしで気軽に散策でき、「まちなみ観光案内所」の看板がある店舗などでは篠山の観光情報を教えてくれる。

丹波黒大豆、栗、山の芋、ぼたん鍋など篠山の大地の恵みの特産物もある。

小さいながら魅力がギュッと詰め込まれたまち。この機会に篠山市を訪れてみては。



おいしいものと見どころがたくさん  
さんの篠山へ遊びに来てね

全国各地で働く  
国土交通省職員が  
地元を紹介!

# MLIT レポート 兵庫県

## 魅力いっぱいの但馬にお越しくささい

Reporter

近畿地方整備局  
豊岡河川国道事務所  
調査第二課長

東岡 正樹



豊岡河川国道事務所では、豊岡市と丹波市を結ぶ延長約70kmの国道483号北近畿豊岡自動車道の整備を進めています。現在は、春日から八鹿氷ノ山間が開通しており、引き続き豊岡までの区間の整備を進めています。平成16年の台風23号では、主要道路が土砂崩れや路面冠水により多くの場所で通行止めとなり、緊急物資や救急医療活動に大きな支障をきたしました。全面開通後は、災害時の代替路として機能し、地域間の移動や災害支援サポートをします。また、豪雪地帯でもある但馬地域の冬の日常生活を支え、広域高速ネットワークが広がることにより京阪神圏への所要時間が短縮し、生鮮食品の鮮度保持・品質向上、温泉やウインターリゾートへのアクセスが便利となり、観光産業の活性化が期待できます。さらに救急医療施設へのアクセスが強化され、地域住民の生命を守る「命の道」として活用されるなど、全面開通は但馬地域の悲願ともなっています。

但馬は、最近話題の天空の城・竹田城、名湯で知られる城崎温泉、四季折々の豊かな自然やズワイガニなどのおいしい食べ物に豊富です。豊岡市では「コウノトリとの共生」を進めており、天然記念物の「コウノトリを間近で見ることができます。近くなった魅力いっぱいの但馬に会いにきてください。」

豊岡河川国道事務所では、豊岡市と丹波市を結ぶ延長約70kmの国道483号北近畿豊岡自動車道の整備を進めています。現在は、春日から八鹿氷ノ山間が開通しており、引き続き豊岡までの区間の整備を進めています。平成16年の台風23号では、主要道路が土砂崩れや路面冠水により多くの場所で通行止めとなり、緊急物資や救急医療活動に大きな支障をきたしました。全面開通後は、災害時の代替路として機能し、地域間の移動や災害支援サポートをします。また、豪雪地帯でもある但馬地域の冬の日常生活を支え、広域高速ネットワークが広がることにより京阪神圏への所要時間が短縮し、生鮮食品の鮮度保持・品質向上、温泉やウインターリゾートへのアクセスが便利となり、観光産業の活性化が期待できます。さらに救急医療施設へのアクセスが強化され、地域住民の生命を守る「命の道」として活用されるなど、全面開通は但馬地域の悲願ともなっています。



湯村温泉



津居山漁港(ズワイガニ漁)



城崎温泉



但馬地域へ  
つながる工事が  
進行中です



養父(やぶ)市八鹿町九鹿地区



豊岡市日高町浅倉地区

凡	<北近畿豊岡自動車道>	<その他の道路>
例	<ul style="list-style-type: none"> <li>開通済(暫定2車線)</li> <li>事業中</li> <li>調査中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開通済</li> <li>事業中</li> <li>調査中</li> <li>国道9号</li> </ul>